

平成17年度第3回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成18年3月2日(木) 14:00～17:00

場 所：京都大学防災研究所 5階 会議室(D-1518)

出席者：山岡耕春、高濱信行(代理：丸井英明)、石橋克彦、岡田憲夫、鏡味洋史、源栄正人、渡邊邦夫、石垣泰輔、真木太一、寶 馨、千木良雅弘、新野宏(代理：守田 治)、岡田義光、矢守克也(代理：川方裕則)

オブザーバー出席：佐々恭二、田中孝紀((財)地震予知総合研究振興会・部長)

事務局：岡本 健(研究協力課長)、角井宏司(研究協力課研究支援課長)

欠席者：辻本哲郎、堀 宗朗、田中仁史、中田節也

オブザーバー欠席：河田恵昭、藤井 隆(文部科学省研究開発局・室長)

(名簿順、敬称略)

配付資料：

資料1「平成17年度第2回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録(案)」

資料2「京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席者名簿」

資料3-1 北海道地区部会報告

資料3-2 東北地区部会報告

資料3-3 関西地区部会報告

資料3-4 関東地区部会報告

資料3-5 西部地区部会報告

資料4「平成17年度突発災害研究等のまとめ」

資料5「防災研究フォーラム報告」

資料6 データベース関連報告

資料7「平成17年度河川災害に関するシンポジウム」

資料8「自然災害研究協議会平成17年度使用状況」及び「地震予知総合研究振興会からの会計処理について(お願い)」

冊子「東北地域災害科学研究(第42巻)」

冊子「大学生および高専学生を対象とした自然災害研究の紹介と啓蒙の

ための訪問講義」(京都大学防災研究所自然災害研究協議会関西地区部会)

DPRI Newsletter No. 36～No.39

議事に先立って、鏡味洋史議長より挨拶があった。

議 事：

1．前回議事録の確認（資料1）

9月16日の第2回会議の議事録（案）を、総務担当（實委員）が説明し、承認。

2．出席者（代理）の確認

名簿（資料2）に基づき、出席者が確認された。

3．今年度の活動状況（次年度活動予定を含む）

（1）第42回自然災害科学総合シンポジウム

9月17日のシンポジウムの概要が報告された。

（2）人材データベース

総務担当より、研究者人材データベースの整備の進捗状況が報告された。これまで外部委託していた管理を防災研究所内の管理とするため、データベース用のコンピュータが導入され、データをリストアして整備を進める作業に入ったこと、このコンピュータの経費として防災研究所から60万円の追加配当があったことが報告された。

（3）地区部会報告

鏡味北海道地区部会長より北海道地区自然災害地区部会幹事会・災害資料センター運営委員会における議事、北海道地区防災フォーラム（2月22日、札幌、76名参加）などの活動が報告された（資料3-1）。

源栄東北地区部会長平成17年度の活動報告及び平成18年度の活動計画が報告された（資料3-2）。また、地区部会長が真野明東北大学教授に交代するので、協議会のメンバーも交代する旨、報告された。

石垣関西地区部会長から、自然災害科学総合シンポジウムの開催への協力を行ったこと、新しい試みとして、大学生および高専学生を対象とした自然災害研究の紹介と啓蒙のための訪問講義を実施したことが報告された（資料3-3、配布冊子）。関西地区ということで、石橋委員より、Sumatra Tsunami Disaster and Reconstruction（3月7-8日、於：神戸大学）の紹介があった（当日配付資料あり）。

渡辺関東地区部会長より、関東地区部会のホームページの更新について報告があった（資料3-4）。特に、防災と環境問題 Q&A のコーナーがホームページ上に設置されたことに関して、京大防災研などで先行して行われている同様の事例について、これまでの経験が披瀝された。また、「彩の国」市民科学オープンフォーラム「地震から我が家を守る」（3月6日、於：大宮）一般公開シンポジウム「首都圏直下の地震を正しく恐れ、みんなで備えよう～埼玉の地震災害とその対策を考える～」（3月27日、於：さいたま）

の紹介があった。

真木西部地区部会長から、平成 17 年度の活動報告と、平成 18 年度の活動計画が報告された(資料 3-5)。第 1 回「震災対策技術展 / 自然災害対策技術展」(3 月 23 日、福岡)を主催すること、風水害・湧水対策に関するシンポジウム(平成 18 年 4 月 3 日、日本学術会議)を講演予定であることなどが報告された。

(4) 突発災害調査状況報告

千木良委員・山岡委員により、資料 4 に基づいて、科研費・特別研究促進費によって平成 17 年度に実施された 5 課題が提示された。また、レイテ島の地すべり災害の調査団(佐々オブザーバー、平成 18 年 3 月フィリピンに派遣)の計画が紹介された。

(5) 防災研究フォーラム平成 17 年度事業報告(資料 5)

千木良委員より、平成 17 年度事業執行報告がなされた。また、防災研究フォーラム第 4 回シンポジウム「災害発生時における情報伝達および避難支援」(3 月 3~4 日、於：京大化学研究所)のプログラムが紹介された。

(6) データベース SAIGAI などについて(資料 6)

矢守委員(代理：川方助手)より、平成 17 年度データベース SAIGAI の書誌情報入力件数の報告、災害史料データベースの状況報告(12,000 件程度が入力済み)、人材データベースの入力方法のデザイン案の提示がなされた。災害史料データベースについては、貴重な史料データベースとしてそのアクセス方法などについて質問があった。

(7) 分科会活動について(資料 7)

寶委員より、河川災害シンポジウム(3 月 8 日、京大百周年時計台記念館)の紹介があった。

4. 予算執行状況について(資料 8)

平成 17 年度の予算案と使用状況の総表と個別表が示された。また、地震予知総合振興会・田中オブザーバーから、会計処理の方法について説明がなされた。

5. 委員の交代等について

上述の東北地区部会(源栄→真野明)に加えて、1号委員の高濱委員が交代の予定(後任は未定)であることが報告された。その他、平成 18 年度より交代が発生する場合は速やかに事務局に報告するよう要請された。

6. その他

(1) 京都大学防災研究所の 1 年間の活動概要の報告を兼ねて、DPRI Newsletter が配

布された。

(2) 次回開催時期については、交代委員の決定後、日程調整により決定することとした。